

月刊 やちまなこ

2026. 6.15 発行

No.343

6 月号

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ノロッコ号（釧網本線）

釧路湿原の夏の風物詩でもあるノロッコ号。1989年6月24日に運行開始した初代は旧型客車1両と緩急車、トラ（※）に幌をつけるなどした改造車両の3両であった。

2代目の現行車両は1998年のデビュー以来、多くの乗客に愛されてきたが、車両の老朽化により今シーズンの運行をもって引退となる。昨年度は6万人の利用があったが最終年は果たしてどこまで伸びるだろう。

（※）屋根のない貨物車両である「無蓋車（むがいしゃ）」のうち、積載量が17トン以上の車両



塘路フィールドノート【5/15～6/14】

【野鳥】

新緑の初夏を迎え、樹木の葉が茂ってくると鳥たちの姿は発見しづらいが行動が活発なので動き回る姿を見ることができる。湖畔には夏鳥や留鳥に加え猛禽類の鳴き声も響き渡っている。



ツバメ (センター軒下)

去年はヒナが生まれた直後巣が落下。今年もめげずに巣作り。繁殖するか。ツバメ科



アカエリカイツブリ (サルルン沼)

沼の浮島に巣を作り抱卵中。巣作りも子育ても雌雄共同で行う。カイツブリ科



クマゲラ (茅沼)

人間がいてもお構いなしにシラカバの倒木を突いて突いて突きまくる。キツキ科



キビタキ (茅沼)

越冬地の東南アジアから夏鳥として渡来。黒白黄のコントラストが特徴的。ヒタキ科



アカハラ (茅沼)

道東道北ではあまり多くない。明るい広葉樹林を好み、林縁で繁殖する。ヒタキ科



ウグイス (塘路原野)

ホーホケキョの鳴き声は雄のみ。一夫多妻の繁殖システムで雌が子育て。ウグイス科

【植物】

雪解けの早さも影響し、初夏の花が例年より早く咲き始めているよう。湿地帯には白や黄色の花弁（または萼片）が鮮やかに映える季節となっている。



クサノオウ (草の王または瘡の王)
アルカロイド系の毒を含む反面、皮膚疾患への薬として使われてきた歴史も。ケシ科



ヒトリシズカ (一人静)
由来は白い花が源義経の愛妾静御前になぞらえた。古くから薬草利用。センリョウ科



イタヤカエデ (板屋楓)
花の後に若葉が出るのは昆虫たちに花粉を運んでもらうためとか。カエデ科



カンボク (肝木)
装飾花が先に展開し中に小さな両性花を多数つける。秋に赤い実がなる。ガマズミ科



エンコウソウ (猿猴草)
リュウキンカの変種とされている。名は長く這う茎を猿の手に見立てた。キボウカ科



フタマタイチゲ (二又一華)
国内では北海道にのみ分布する。絶滅危惧Ⅱ類。今年は開花が早い。キンボウゲ科

【昆虫・爬虫類】

気温上昇とともに昆虫たちの動きも活発化。鳥の声を凌駕するセミの声も響き渡る。昆虫を食す爬虫類も姿を現し釧路湿原は生き物の食物連鎖を間近で観察できる季節となっている。



セスジアカガネオサムシ (茅沼)
国内では北海道のみに生息する湿地性のオサムシ。主に蛾の幼虫を食す。オサムシ科



アリジゴク (塘路湖畔)
砂地に潜ってすり鉢状の巣作り。コウスバカゲロウの仲間 (幼虫)。ウスバカゲロウ科



カナヘビ (塘路原野)
ヒガシニホントカゲと思いきや鱗の形と前額板の違いからカナヘビであった。カナヘビ科

「塘路湖北岸秘境の砦 (チャシ) 探検」を開催しました

5月23日、塘路湖北岸にあるチャシ（砦）を目指して探検するイベントを開催しました。

気持ちの良い風と最高の青空の下、新緑の森の中をヒトリシズカやリュウボタンを観察しながら20分ほどかけて下ると海跡湖の面影を強く残す砂浜の東岸へ到達。出迎えてくれたのは国内では北海道にしか自生しないフタマタイチゲの白い花。進路を北東に取り、浅い沢を渡渉するとコンロンソウに舞うミヤマカラスアゲハがお出迎え。休憩後ゆるいこう配を15分ほど片斜面の獣道に苦戦しながら登ると人工的な環濠が残るコタンヌベツチャシに到達。快晴の下で新緑の森と湖とアイヌ時代のチャシに立ち、歴史と自然を十分堪能するイベントでした。参加者10名



【報告】「新緑の湿原 茅沼奥のほとみち探検」を開催しました

6月6日、シラルトロ湖周辺を歴史探訪と自然観察を探検気分でトレッキングするイベントを開催しました。人工的な環濠が残るシラルトロ第2チャシ(国指定史跡・釧路川流域チャシ跡群)からスタート。縄文時代の住居跡が埋蔵されている蝶の森ではコウライテンナンショウの花が最盛期。開拓時代の炭焼き遺構を経て馬車道を通るとほどなく湖岸へ到達。

昔は海だったと実感する砂浜をトレッキングしながら樹木の花や野鳥を観察し、獣道を利用して遊歩道に復帰し狭い木道区間を通り最終目的地へ。直前の霧雨で濡れた丸太道でしたが全員怪我無く無事通過。終点は湖南エリアと湿原に鉄路を望める大展望地。休憩場所で昼食タイムのあとは年3回しかないノロッコ川湯温泉号が姿を現し、内容盛りだくさんのイベントでした。参加者9名



7月の自然ふれあい行事

事前の申し込みが必要です

縄文土器作り講座

[日 時] 7月4日(土) 10時～14時
[定 員・参加料] 15名 400円(材料費)
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター
◎申込・問い合わせは
塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み! 塘路湖畔の昆虫を探そう

[日 時] 7月25日(土) 10時～12時
[定 員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター
◎申込・問い合わせは
塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏の樹木を見に行こう

[日 時] 7月5日(日) 10時～12時
[定 員・参加料] 15名 無料
[開催場所] 温根内ビジターセンター
◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
(0154-65-2323) まで

ホタルの週末

[日 時] 7月10日(金)～12日(日)
18時30分～21時
[定 員・参加料] 20名 無料
[開催場所] 温根内ビジターセンター
◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 5/15(3:56,18:39). 5/31(3:43,18:55). 6/14(3:39,19:04)

～指導員の独り言～

■人が森に入ると快適に感じるのとは人と自然の長い歴史があるからだそう。人類の歴史では都市部で暮らすようになったのはその歴史のほんの0.01%以下でしかないという。そういえば日本人のルーツである縄文人とタイ北部の少数民族(森の民)の遺伝子がかかなり近いということが解析されている。日本人のご先祖様は森の民。しからば森林の中で動き回って健康になろうではないか。マイマイガの幼虫がくっついていてもダニが引っ付いても、ヒグマに追いかけてられても。

そこまで命がけでやることではない。(M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiroshitsugen-np.jp

Instagram

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料